



町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元気・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

無人販売所からのメッセージ

ロスアンゼルスでトランプ大統領の移民政策に抗議するデモが暴徒化し略奪行為も発生した、というニュースがありました。諸外国では火事場泥棒のような行為がたびたびあるようですが、日本では大きな災害時にも大規模な略奪行為があったと言うことはあまり聞いたことがありません。現に、東日本大震災の際もアメリカのニュースチャンネルCNNが、「震災下でも文化に根ざす規律」と題し、「略奪行為も、食料を奪い合う住民の姿もみられない。震災下の日本で守られる規律は、地域社会への責任を何より重んじる文化のたまものかー」（2011年3月12日）と報道しています。

また、『警視庁の発表によると、2018年に東京管内では証明書類（身分証など）について約101万件の遺失物届が提出され、これに対して拾得届は約75万件であった。当然ながら届出が行われなかった遺失・拾得は含まれていないものの、数字の上では身分証を落としても4回に3回は戻ってくる計算になる。同様に携帯はおよそ26万件中の61%、財布は40万件中93%と、高い割合で落とし主に返還されている』という記事もありました(<https://newsphere.jp/national/20200901-1/>)。

これらのことは、私達日本人の誇るべき道徳性なのではないかと思うのです。「拾ったものは自分のもの」「隙あれば他人のものにも手を出す」という人だらけの社会と「落とし物は届ける」「誰も見ていなくても悪いことはしない」という人に囲まれた社会を比べたら誰もが後者を選ぶことでしょう。

「農産物の無人販売所」という店舗形態があります。無人販売所は店員や設備にお金を掛ける必要がないので、新鮮な農産物を安価で提供しています。私の住む小川町でも多く見かけます。時には新鮮な野菜を目当てに、遠方から訪れる人もいます。教育委員会事務局で「農産物の無人販売というシステムは、日本でしか成り立たないのではないか」という話題になりました。農産物の無人販売は「この世の中には、品物を黙って持ち去ったり売上金を盗んだりするような悪いことをする人はいない」ということを前提としなければ運用できない仕組みだということです。「世の中は、どさくさに紛れて略奪したり、誰も見ていないからと悪事を働くような人ばかりだ」を前提としたら成り立ちません。盗難防止のための監視カメラや持ち去ることのできない厳重な料金箱などの設備投資をしたら、安い品物を提供することなどできないからです。

このように考えると、日本の社会制度のほとんどは性善説に基づいて設計されていることがわかります。例えば選挙制度です。昨年の東京都知事選挙では、掲示枠にポスターを貼る権利を販売したり、選挙と関係ない写真や別のサイトに誘導するバーコードを載せたポスターを貼ったりするなど残念な行為が見られましたが、民主主義の根幹である選挙制度はこのような行為を想定していません。公職選挙法は、「大多数の人は法律の抜け穴を狙うような非常識な行為はしない」という前提でつくられています。

第二次世界大戦の際のイギリスの首相ウィンストン・チャーチルは、「民主主義は最悪の政治形態である。ただし、過去の他のすべての政治形態を除いては。」という言葉を残しています。「民主主義には無数の欠点があるが、それでも他の制度よりましである」という意味でしょう。性善説に基づいてつくられた制度は次のようなメッセージを人々に送っていると思うのです。「あなたがこの制度の守り手なんですよ」「あなたが真っ当な大人に育たないとこの世の中は持ちませんよ」というものです。

無人販売所は「不完全な制度からのメッセージを丁寧に受け取ることで、人間として成熟することができる」と教えてくれているのではないのでしょうか。



図書館からのおすすめ絵本



図書館では、家族と一緒に本を読むことで、読書に親しんでもらうとともに、家庭内のコミュニケーションを深めることを目的とした「家読」(家庭読書)を推進しています。

子どもも大人も楽しめる、家読にぴったりの絵本をご紹介します♪



ラチとらいおん

『ラチとらいおん』
マレーク・ベロニカ 文・絵
とくなが やすもと 訳
福音館書店

『ラチとらいおん』

こんな人におすすめ → 新しいことに挑戦しようとしている人

主人公の少年ラチは、世界中でいちばんの弱虫です。

ラチは飛行士になることを夢みますが、犬を見ると逃げ出し、暗い部屋には怖くて入ることができません。そんな弱虫のラチのところに、ある日、とっても強い小さな赤いらいおんが現れました。ラチは、らいおんと一緒に居てくれることで、少しずつ勇敢になっていきます。そして最後には…。

不安なときには、心の中に小さな赤いらいおんが居てくれますように。少し切ないけど、前向きになれるお話です。

※この本は、滑川町立図書館に所蔵があります(貸出中のときは予約ができます)

図書館担当 須賀



NEWS!!

ミヤコタナゴの稚魚が誕生しました!!

今年度もエコミュージアムセンターにて、ミヤコタナゴの稚魚が誕生しました。

ミヤコタナゴは3月頃から7月にかけて繁殖の時期を迎えます。オスは繁殖の時期になると、メスへのアピールをするために背鰭やしり鰭が紫色や橙色を帯びた婚姻色に変化し、メスは同じ時期に産卵管という卵を産むための管が伸びてくるのが特徴です。エコミュージアムセンターでは主に人工繁殖と呼ばれる方法で、毎年繁殖を実施しています。

4月1日(火)から4月25日(金)にかけて実施した人工繁殖によって、合計1811匹が稚魚として成長しました。現在、その一部を展示ホールにて紹介中です。夏休みを利用して、是非エコミュージアムセンターにお越し下さい!!



みんなで
見に来てね～!



みんなに会えるのを
楽しみにしています!

